

平成 28 年 4 月 20 日

学修支援センター長 殿

経済学部長 尾近裕幸

## 平成 27 年度 学部学修支援事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	経済学部
事 業 名	グループワーク形式の授業における学修支援
平成 27 年度実務担当者名	根岸 毅宏
<b>事 業 の 概 要</b>	
<b>【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？</b> （いずれかにチェック☑）	
<input type="checkbox"/> 計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね計画通りであった <input type="checkbox"/> あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/> 計画通りではなかった	
（以下、 <b>本年度の推進事業の概要</b> について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）	
<b>●本事業の目的</b> 本事業の目的は、経済学部の初年次科目を中心として、学生の学修を支援する2つの事業を実施することである。 第1は、グループワーク形式のアクティブラーニング授業を実践する際に、学生の議論の活性化を促すとともに、学修の支援も行うFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）を1クラス1名、配置することである。 第2は、クラスに偏りなく、基礎的な日本語スキルの強化を図るために、レポート添削を委託契約の形式で外部業者に依頼することである。	
<b>●内容</b> 第1は、FAを、グループワーク形式のアクティブラーニング授業である「基礎演習A」、「基礎演習B」、「経営学特論（ビジネスデザインI）」、「経営学特論（リーダーシップ）」に配置することである。 第2は、レポート添削について、初年次の必修科目である「基礎演習A」と「基礎演習B」のすべてのクラスで、同一テーマのレポート（800字程度）を課し、「てにをは」や改行の仕方などの基礎的な日本語について、レポート添削とコメントを実施することである。この業務を（入学前教育を委託している実績のある）ファカルタス社に委託する。	
<b>●計画</b> 第1に、FAを、上記の4つの科目に付けることについては、「計画通り」実施した。 第2に、レポートの添削とコメントについては、「計画の変更」があった。当初は前期と後期の2回実施する予定であったが、「基礎演習A」での1回の実施になった。そのため、「レポートの添削とコメント」として計上した委託費（労務）880千円のうち446千円をレポートに関して支出し、残りの413千円は「本事業の第1の目的」をより充実させる目的で「FA育成のための外部支援」としてイノベスト社に委託した。 委託費（労務）についてレポートの添削とコメントを1回にした理由は、すでに「理由書・計画書」を提出済みであるが、簡潔に2つの要点を述べよう。第1は、1回のレポート添削で学科間の日本語力の傾向が把握できたからであり、今後は日本語力の強化を図る授業内容を経済学部の教員で検討することが現実的な対応であると考えた。第2は、次年度から経済学部の基礎演習23クラスの全てで、グループワーク形式のアクティブラーニング授業を実施することが教授会で決まったので、基礎演習の授業に欠かせないFAの育成について緊急性が増したためである。	

## 成 果 と 展 望

【達成度】年初計画で設定した目標は達成できたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック☑）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

### 事業推進によって得られた成果

（以下、**本年度の事業推進によって得られた成果**について、年初「申請書」の「期待される効果・達成目標」、及び上記【達成度】の自己評価に照らして記入してください。）

#### ●本事業の第1の目的（FAの配当）

- ・FAは、「基礎演習A」と「基礎演習B」で15クラス、「経営学特論（ビジネスデザインI）」で3クラス、「経営学特論（リーダーシップ）」で2クラスに配当した。
- ・最大の成果は、「基礎演習A」と「基礎演習B」におけるグループワーク形式の授業の成果が経済学部の教員の間で共有され、平成28年度から23クラスのすべてでグループワーク形式の授業を実施することになったことである。
- ・この「基礎演習A」と「基礎演習B」の成果において、FAは授業を円滑に行う上で大きな貢献があった。
- ・当初計画を変更して、後期「基礎演習B」において「FAの育成のための外部支援」を実施し、FAの組織化、業務内容の共有と共通化など、次年度に向けた取り組みを実施した。その成果として、FAが30名程度のFA希望者に対して2月と3月に1度ずつ合計2回の勉強会を実施して、後継を育成することができた。
- ・「経営学特論（ビジネスデザインI）」は、今年度初めて本格的なPBL型授業を実施したが、3つのクラスそれぞれ、円滑な授業運営ができた。また、宿題や課題の連絡についても周知徹底が可能であった。今年度は受講生が45名程度であったが、次年度は2倍の受講生を見込んでいる。
- ・「経営学特論（リーダーシップ）」は、後期に実施する、次年度のFAを育成する目的なる授業である。この授業も今年度初めて実施する授業であったが、FAが付いたおかげで、円滑な授業運営と宿題や課題の周知徹底ができた。

#### ●本事業の第2の目的（レポート添削とコメント）

- ・学生は、「てにをは」や改行の仕方など、レポート添削してもらうことで基礎的なレポートの書き方を学ぶことができた。
- ・学生はレポートを素点で評価してもらうことで、自らの状況を把握することができた。
- ・教員は学科間の日本語力が予想したとおりの傾向があることがわかった。

### 得られた成果の今後の活用策

（以下、前記「本年度の事業推進によって得られた成果」を踏まえ、授業等への具体的な反映方法等、**今後の活用策や展望**について具体的に記入してください。）

#### ●本事業の第1の目的（FAの配当）

- ・平成28年度は「基礎演習A」と「基礎演習B」でのすべてのクラスで、グループワーク形式の授業を実施するので、すべてのクラスにFAを付けて、円滑な授業運営と課題宿題の周知徹底を図ることである。
- ・平成28年度以降も、「基礎演習A」と「基礎演習B」のすべてのクラスで、グループワーク形式の授業を安定的に行える体制を作りたい。
- ・そのためにはFAの組織化、業務の共有と共通化などを図るとともに、FAによる後継の育成も継続して実施できる体制を作りたい。
- ・オープンキャンパス他高校への出前授業へFAも同行し、基礎演習の授業を行える体制を作りたい。
- ・FAの組織化、業務の共有と共通化、後継の育成などのノウハウを確立し、他学部が導入する際に参考にできるようにする。

#### ●本事業の第2の目的（レポート添削とコメント）

- ・学科間の日本語力の傾向が把握でき、よりきめ細やかな日本語添削・指導を必要とする学生が多い学科が存在する。「基礎日本語」の担当教員とこうした状況を共有し、現状に応じた日本語の指導体制を確立する。